

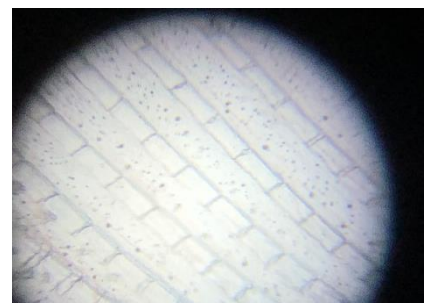
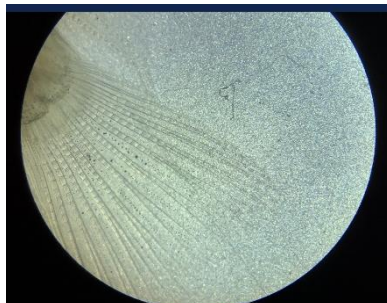
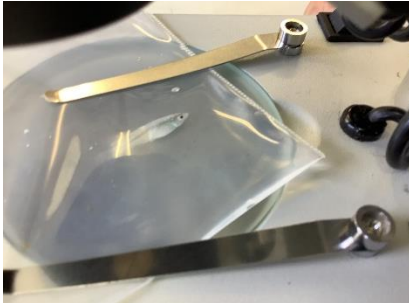


2022.6.13 第12号

森田 博

6年動物のからだのはたらき  
～血管のはたらき～

## メダカの子のヒレの血管を顕微鏡で観察しました。



5年生が育てているメダカを使って、ヒレに通っている血管や血液が流れる様子を双眼実体顕微鏡で観察することができました。本当に小さな細い血管で、うすピンク色をしていて、よくよく見ないと流れまでは捉えることができません。動画を撮影し、大型電子黒板を使えばうっすら分かるといった状況でしたが、みんな「見えた見えた!」「動いてる!」と声を上げていました。

見えたことはもちろん、パッチン袋 (Zip ロック) にメダカを閉じ込めて、そのまま顕微鏡のステージに乗せるという観察操作に興味津々で取り組んでいました。かわいそうだけど、あえて子どもたちに全ての操作をしていただきました。教師が顕微鏡から動画を撮って見せるだけでは、実感は伴いません。自分たちの手で、メダカの血管を見るんだ、どうすれば見えるんだ?というワクワク感のもとで学習を進めてほしいという思いで、こうした観察も続けていきたいと思っています。

しかし、やっぱりこんな狭く薄い空間に何分も閉じ込めて、3クラス分すれば、だんだんメダカは弱ってきました。そして、**事件は起きました**。1匹のメダカを水槽に戻すと…ペタン…**ぴくりもしません**。私もみんなもかなりショックを受け、**がっかり**して授業を終えました。

それでも、わずかな希望を持って、様子を子どもたちと見ていると、**エラが動き**始め、スポットで刺激を少し与えてやったら、**再び泳ぎ**始めました。メダカは本当に強い!!!

昼休みに心配して見に来た A 君。「生き返ったよ!」と話すと「ほんまっ!!?」「すげっ!!」と。そのあと廊下を歩いていると、「**死んだメダカ生き返ったん!?**」とB君。いつの間にか伝わっていました。こういうやり取りがリアルで私は大好きです。1匹のメダカを大切に思う6年生。去年のメダ学習を思い出してくれたのでしょう。理科室では、今年も100以上の**命がまた誕生**しています。稚魚の孵化が楽しみです。



メガネを外して、必死でピントを合わせています。生きたメダカです。手際よく観察して、早く水槽に戻してあげたい。そんな思いが、みんなの観察の様子からうかがえました。

タブレットの活用で、顕微鏡でどんな風に見えるのかを共有できるようになりました。目でのぞかずにすぐにタブレットを接眼レンズに当てる子もいます。そのときは、必ず目で見てから撮影しましょうと伝えています。まずは、自分の目で確かめてほしいです。

こんな小さなメダカも、すべてのヒレの先までしっかりと血管が張り巡らされ、血液が全身を通っていることを、観察を通して理解することができました。